

「仮面夫婦の鑑」 作／横山拓也

《登場人物》

・妻
・夫

【1】

舞台には、テーブルと椅子が2脚。

テーブルを挟み、それぞれ椅子に腰掛けた夫と妻が向かい合っている。
妻が大きくため息をつく。

夫、笑う。

妻　なんで笑うんよ。今、そんな顔で。

夫　お前が悪いねんぞ。

妻　ああもう何なん。全然わからん。ホンマわからん。

夫　俺も同じや。

妻　同じちゃうって。あんたの目的。

夫　俺の目的。

妻　ムチャクチャやん。

夫、また笑う。

妻　やめてや。(笑うことを)

夫　解ったか、俺の気持ち。

妻、強く夫を睨む。

夫　何を睨んでんねん。どっちが被害者やねん。

妻　被害者って何？　どういう観点からそんな言葉が出てくるんよ。

夫　俺がどんだけ辛かったか。俺がどんだけ悩んだか。

妻　何が辛いことあるん。何を悩むことあるん。

夫　それをお前も身をもって知ったらええねん。

妻　最低や。そんな：

夫　そっくりそのままお前に返ってくんねんぞ。

夫、顔をさすって、

夫　アカン、まだちよっと突っ張る感じあるわ。こういうんあった？

妻はそれについて何も返さない。

夫 同窓会、いつやったっけ？

妻 ?

夫 高校の。ハガキ来てたやろ。往復ハガキ、返信したやろ。日付とか書いてある方、入れてたやん、アヒルのカゴに。

妻 それが何。

夫 いつ？

妻 19日。

カレンダーを見て。

夫 そこ合わせてってこと？

妻 ちゃうって。

夫 何でもちやうちやう言うて。

妻 だって違うから。

夫 せやけど、重なってるやん。この時期。藤原の結婚式もあるし、あそこ来るやろ、ベリーダンスと一緒にやった人とか。あ、ベリーダンスの発表会もその前にある言うてへんかった？

妻 だからそういう誰かに見せるとか、そんなんちやうって言ってるやんさつきから。さつきからって言うか、もうずっと言うてるやん。

夫 お前が言うてるんは「ちやう」ばかりやろ。ちやんと何がちやうんか説明せいや。

妻 命令口調で言うんやめて。ルールやろ。

夫 ルールって言葉持ち出すんか？ お前が？

妻 何。お互い様やん。

夫 うわ、開き直った。開き直った。

妻の携帯が鳴る。

妻、応答保留する。

夫 切っとけや。大事な話してんねんから。

それには返さず、

妻 なんでそんなことしたん？ 仕返しみたいに。

夫 証明するためや。

妻 何を。

夫 愛。みたいなもん。

妻 わからへんねん、そういうの私。

夫 俺は辛かったし、悩んだけどな、受け入れることにしてん。だからお前も受け入れてくれ。ほんならそれでとんとんや。

妻 とんとんちやうやん。

夫 そこや。

妻 え。

夫 それをお前が言うから俺は怒ってんねん。

妻 何がよ。はつきり言うてや。

夫 お前が「とんとんちやう」っていうのは何や？ 何を指してんねや。

妻 何って。

夫 仕上がりか？ 仕上がりやな？

妻、無言である。

夫 言えや。

妻 そう、かもしらん。

夫 かもしらん？

妻 なんか、ちやうねん。それもあるけど、仕返しにそういうことするんが…怖いねん。

夫 旦那に怖いって何や。

妻 顔が違う。

夫 だからお互い様やろ。乗り越えろ言うてんねや。もうそうだったもんはそうだったと、受け入れて。

妻 嫌や。

夫 それをお前が言う権利はない。

妻 なんでそんな。なんでそんな中途半端な顔に整形するんよ。

夫 いい加減に気づけて。顔ちやうねん。顔関係ないねん。

妻 あるよ。だから私整形したんやんか。

夫 俺かてお前の一重瞼が好きやってんぞ。低い鼻が好きやったんや。

妻 こっちの方がええやん。こっちの方がキレイやん。

夫 やめろ。

妻 意地悪してるだけやん、のりくん。そんな、自分の顔までいじって。

夫 会社もどれだけ休んでるんよ。その顔で仕事どうするん。

夫 俺の顔見ろ。ちやう、その奥を見ろ。

妻 見えへんよそんなん。

夫 見んねん。よう見てくれ。俺がおるやろ。

妻 気持ち悪いから。

夫 何が？ 俺が？ この顔が？

妻 全部や。

夫 嘘つくな。ちゃんと見え。何が気持ち悪いねん。

妻、突如その場を去り、離れたところで（キッチンの流し台であろう場所で）嗚咽、そして嘔吐したようだ。

夫　　なんで、吐くねんお前は。なんで吐いたりすんねん。

妻、戻ってくる。

夫　　俺かて吐きたいわ。

また妻の携帯が鳴る。

夫　　それ。何回言わせんねん。

妻　　（着信画面を見て）のりくんのお母さんからやで。

夫　　え。

妻　　出んでええの？

夫　　今はええねん。

妻　　お義父さんのことちやう？

夫　　知らん。

妻　　容態急変してたらどうするん。

夫　　知らんて。

しばらくして着信音は止む。

妻　　のりくんの携帯にもかかってへん？

夫　　ええねん、もう。

妻　　ホンマにええねんな。

夫　　ええねん。

妻、携帯をしまふ。

少し沈黙する時間があつて。

夫　　男ちやうやるな。

妻　　は？

夫　　浮気。

妻　　言ってる意味わからん。なんでそうなるん。

夫　　さつきから電話。

妻、画面を夫に見せながら、

妻 だからお義母さんや。もう3回目やで。掛け直さな。

夫 やめろ。

妻 何よ。

夫 今はやめろ。

妻 あんたがつまらんこと言うから。

夫 でも考えてまうやろ。整形するってことは、誰か俺以外の男に好かれようとしてるって。それ自然な思考やろ。

妻 ちゃうって。そんなんとちゃうから。ホンマに。

夫 「ちゃう」だけでは分からんねん。

妻 私は、私はちゃんと内面見てもらいたいから。内面見てもらいたいから外見を変えたんやん。

夫、妻の言葉を咀嚼するが、理解が及ばず。

夫 何て？ 自分の言うてること分かってるか？ むちやくちややぞ。

妻 人を見かけで判断するな。

夫、妻の次の言葉を待つ。

妻 ずっと言われてきた。小学校のときからずっと。お父さんにもお母さんにも、先生にも。

夫 正しい。それをお前は、

妻 最後まで聞いて。

夫 何。

妻 のりくんもそう思う？ 人を見かけで判断するな。

夫 おお。

妻 でも、そうやって教えてきた人たちが化粧してるし、美容院行ったりしてんねん。

夫 それはちゃうやろ。

妻 毎朝きれいに髭剃りしたり、鼻毛抜いたり、ネクタイどっちの柄がいい？とか見栄え気にしてるやん。

夫 それは別やん。それは、人前に出る際のマナーやん。

妻 その線引きってどこ？ どこまでがマナーなん？

夫、即時返す言葉はない。

妻 説明できひんやろ？ そやねん。そんな曖昧なことやのに、人を見かけで判断するなって教えられて生きてきてんねん、私は。

夫 そうや。それやのになんでお前は整形なんかすんねん。

妻 マナーやん。マナーしつかりしとかんと、始まらへん。

夫 超えてる。マナー超えてる。

妻 主観の問題やろ。化粧したり、髪の毛セットしたり、一緒やねん。いつかやろうとずっと思ってたん。毎日化粧する、ふた月に一回髪切りにいく、一生に一回、顔整形する。そういうことやん。

夫 わからん。わからんてその考え方。

妻 だから主観や言うてるやろ。

夫 でも俺らは夫婦やねんぞ。モノの見方とか考え方とか、それこそ価値観とか、出来るだけ均（なら）していかなアカンやろ。

妻 アカンってことはない。そんなん夫婦かて他人やねんし、そんなんは自然と合ってくるもんやし。

夫 俺はお前のその価値観には合わせられへん。

妻 そんなことないよ。

夫 は？

妻 もうのりくんかて私と同じやねん。

夫 俺の整形はお前とは違う。ちよつと落としてんねんから。

妻 一緒や。

夫 一緒ちゃう。

妻 結局のりくんも顔にこだわってんねん。顔の奥にあるものを見ろとか言いながら、のりくんが一番顔にこだわってんねん。

夫 なんでそうなんねん。

妻 ホンマに私の内面見てくれてるんやったら、整形したくらいでそんな発狂せえへんはずやもん。

夫 発狂で。発狂なんかしてへんし。

妻、鼻で笑う。

夫 なんやねん。

妻 やっぱりそうや。人は顔じゃないとか言う人ほど自覚ないねん。高校のときの茶道部の顧問の先生もそうやったわ。男の先生。内面磨け、内面磨けって言っときながら、いつつもかわい子ばかり鼻屑して。びつくりするわ。「ええ！先生見かけで判断してるやん」って指摘したら、「お前は性格までブスになってどうすんねん」やって。受けるわ。

夫 その先生はおかしい。

妻 私からしたらあの名前も忘れた先生と、のりくんかて一緒やねん。結局顔しか見てんへんねや。一重瞼が好きやとか、低い鼻が好きやとか、それ全部見た目やん。

夫 俺が言ってるのは見た目ちゃうくて、

妻 何よ。

夫 食い気味でくんや。

妻 何。

夫 俺が言ってるのは、お前自身が持って生まれたものを愛してるっていう話やろ。内面も外見も、顔とか、化粧とか、そんなんも全部含めて好きになつて、お前と一緒になつたんやろ。

妻 てことは何？ 私が持って生まれた顔を変えたのが気に入らんってことなん？

夫、頷くのを堪えて、

夫 なんかここで頷いたら矛盾する気がする。

妻 そやな。さっき受け入れるって言うたもんね、この顔を。

夫 そう。そうや。だからお前も俺のこの顔を受け入れろっていう話や。乗り越えろっていう話や。

妻 無理やから。

夫 俺は乗り越えるって言ってんのに。

妻 だから違うやん。

夫 一緒や。顔変えたっていう現実、一緒や。

妻、突如夫に顔を近づけて、

夫 なに。

妻 よう見たら愛嬌あるな、のりくんの新しい顔。

夫、一瞬妻の言った言葉を頭で反芻してから、

夫 受け入れるってことか？ この顔を。俺を。

妻 なあ、私の話もちゃんと聞いてた？ もう顔だけの話ちゃうで。

夫 え？

妻 そういう執拗で陰険な仕返ししてくるのりくんが怖いって言ってねん。そんな人と一緒に歩きたくないって言ってんの。

夫 ちよう待てや。

妻 なんか整形して顔変えたことで、のりくんの本当の部分が見えてきて、私正直びっくりした。そういう人やっただんやって。私、のりくんのこと、分かってたつもりで何も分かってなかったんやって。

また妻の携帯電話が鳴る。妻が出ようとはしないので、夫もそれには触れない。
着信音が止む。

妻 のりくん、アホや。私はようやく内面まで見てもらえるようにスターラインに立ったのに。のりくんは自分から遠いところに行って。

夫 なんやねんそのスタートラインって。考え方おかしいって。
妻 のりくんは無意識に私の顔に優越感持っててんで。
夫 は？
妻 この程度の顔の女やったら安心して思ってたてん。
夫 思ってたへん。
妻 思ってる。私が普通以下の顔やから、浮気もできへん、女として見られることもない、俺だけがこいつを愛してやってる、そういうエゴの塊りで私のこと見ててん。
夫 いっ俺が。いっ俺がそんなこと言った？ そんな態度取った？ 全部お前の被害妄想やろ。
妻 あんねん。のりくんの言動の中に優越感みたいなのが。
夫 ない。誓ってないよ、そんなん。むしろ俺の方や。俺こそ腹も出てきたし、オシヤレとかできへんし。そんな俺にとつて、お前は自慢やってん。外見のことで言うたらそう思ってた。あのままで十分やったのに、お前が突然俺に何の相談もなく顔変えるから。
妻 相談したら絶対止められたから。
夫 止めるよ。そら止める。
妻 私のこともとと理解してえや。
夫 どうしたらええねん。整形を許すことが理解になるんか？
妻 今してる話し合いを整形する前にしたかった。
夫 こっちの台詞や。
妻 結局私たち、なんも話そうとしてこんかった。そう思わん？
夫 そんなことないやろ。
妻 和室にかけてる私の皮のコート、西日で右袖だけ焼けて変色してんで。
夫 なんやねん急に。
妻 急ちやうし。
夫 は？
妻 覚えてへんの？
夫 知らん。
妻 私この話4回してんで。これで5回目。
夫 ウソや。
妻 ウソちやうわ。テレビ見てたり、ゲームしてたり、ちっとも私の話聞いてくれへんかったやん。
夫 家おるときくらい、好きにさせてくれや。
妻 あんたが転職したときも仕事やめる相談なくてびっくりしたし。
夫 あれは心配掛けたくなかったし、次決まってた話やから。
妻 この家借りるときも、もう手付け払ってたし。
夫 掘り出しもんやったんや。お前も気に入ってくれてたやろ。
妻 食卓でこうやって向かい合うことももう何ヶ月もない。
夫 仕事忙しかったからや。分かるやろそれは。夫婦やねんから。

妻 ベリーダンスもリョウちゃんに誘われて勝手に習い出した。

夫 それは、それは、お前の話な。

妻 箸置きとか、便座カバーとか、自分の趣味でコロコロ変えるし。

夫 それもお前やな。百均やろ？ 気分転換やろ？ かまへんよ、そんな
ん俺は。

妻 学生のと時から考えてた整形手術を夫の長期出張の間に勝手にするし。

夫 ……。

妻 それが気に入らんくて、私と同じクリニックで仕返しの整形して、顔を中の下に変えた…下の中に変えた。

夫 評価下げんな。

突如、妻を吐き気が襲う。

妻は嗚咽しながらキッチンの方へ。

夫 おい、なんやねんさつきから！ 氣い悪い！

妻が戻ってきて。

妻 3ヶ月やって。

夫 は？

妻 赤ちゃん。

夫 は？

妻 赤ちゃん。

夫 聞こえてるわ。え？ なんやて？

妻 だから、

夫 ちゃう。え？ なんやねん、どんなタイミングやねん。

と、言いながら、妻に抱き締めようとする。

妻 近づかんといて。それ以上近づかんといて。

夫 なんだ。

妻、体を背ける。

夫 なんで黙っててん。

妻 のりくん、忙しそうやったから。

夫 事が事やんか。おい。

妻 こんな大事なことも話されへん関係やってんで、私ら。

夫 それは、それは、ごめん。せやけど、それとこれとは違う話やろ。

妻 それとこれって。

夫 整形と、子供。

妻 遺伝子まで整形できたらええねんけど。

夫 何を言うてんねん。

妻 元の私の顔の遺伝子引き継いでもうてんねん。

夫 だから何や。

妻 残念やわ。

夫 お前な。子供の顔までいじったら承知せえへんからな。

自宅の電話が鳴る。

2人、電話に視線。

夫 家電、こんな着信音やったんか。

妻 お義母さんやろ。

妻が電話に出る。

妻 はい。

電話の相手は夫の母親である。

妻 お義母さん。ごめんなさい、携帯気づかなくて。

病床にいた父親の容態が変わったという。

妻 え。ちょっと待ってください。(夫に) やっぱりお義父さんのこと。

急に血圧上がって…ちょっと代わりいや。

夫 今は？

妻 今ちょっと落ち着いたらしいけど。いいから、ほら。

電話を夫に向ける。

夫、電話を受け取り、

夫 もしもし。

母はとりあえず病院に來いという。

夫 行かれへんよ。

妻 ちよっと。

夫 こんな顔で行かれへん。親父混乱させるだけや。

母が電話の向こうで何を言っているのか分からないという風に喚いている。
夫が静かに言う。

夫 それより、子供できたで。

妻 なんで今言うん。

夫 親父に伝えといて。

母は混乱しているが、夫は電話を切った。

妻 のりくん。

夫 こんな顔にして、会われへん。

妻 そんなん言うてる場合ちやうやん。

夫 俺とお前で行ってみ。どこの他人かと思われんぞ。説明もできへんし、
したところで納得できへんやろ。

妻 じゃあどうするんよ。

夫は力なく笑う。

妻 なんで笑うんよ、今、そんな顔で。

電話が鳴る。鳴り響く。
溶暗。

第一場了

あれから5ヶ月が経って。

整形のための長期の無断欠勤の結果、夫は職を失った。

今、就職活動中である。

妻は妊娠8ヶ月。生まれてくる子供のためにもお金は必要ということで、知り合いに頼まれた美術モデルの仕事を単発で引き受けた。夜。

帰宅する夫。

妻 あ、おかえり。

夫は黙ったまま椅子に座る。

妻 今日も一日お疲れ様。何飲む？ コーヒーでも淹れよか？

夫、返さない。

妻 どうしたんよ。

夫 今日、喫茶店でな、

妻 あ、もうコーヒー飲んだ？

夫 いや、

妻 そしたら、とっておき出そか。

夫 え？

妻 軽井沢の地ビール。ここんとこずっと発泡酒やったし、久々のビール。嬉しくない？

夫 軽井沢。

妻 私に絵画モデルの仕事紹介してくれた美大の先生が旅行のお土産について。妊婦にビール渡すか？って思ったけど、まあ、就職活動頑張ってる旦那のためには一番のエネルギー源やからね。出す？

夫 ええわ。

妻 お風呂上りにする？

夫 いや、

妻 何、遠慮せんでええやん。この子のためにも早よ仕事見つけてもらわなあかんねんし。

夫、返さない。

妻 あごめん。ちやうよ。そんなプレッシャーかけるつもりとか全然ないし。あ、ちよっとこれ見て。

と、妻は一枚のエコー写真を持ってくる。

妻 今日8ヶ月検診で取ってもらった赤ちゃんの写真。すごい？ 今の技術。

写真を受け取る夫。

妻 問題なく健康に育ってるって。

夫 そっか。

妻 まだ顔はハッキリわからへんけど。見て、ここ。

夫 ん？

妻 おちんちん。

夫 じゃあ。

妻 うん。男の子やって。

夫、喜びはあるが、何度か頷く程度。

妻 ええ、なんかリアクション薄くない？ のりくんずっと男の子がええつ

て言うてたのに。

夫 うん。

妻 うんちやうし。

夫の様子が変なのに気づいて、

妻 ん？ なんかあった？

夫 革靴。

妻 革靴？

夫 歩いてたら、底が取れた。

妻 ええ。

夫 あんな傷んでるって思わなかった。

妻 どうやって帰って来たん。

夫 百均でガムテープ買って。巻いて。

妻 もう。だから言ってたのに。この前アウトレット行ったときなんで革靴買ったんよ。ナイキのスニーカーなんかいらなかったやん。

夫 ホンマ、金ないときに、俺は。

妻 革靴のフリして履いて行くしかないんちやう。

夫 革靴のフリ。

妻 幸い色も黒やし。

夫 スーツにスニーカーおかしいやろ。

妻 バレへんて。
夫 バレるわ。
妻 そしたら。持って来て。
夫 え。
妻 ナイキのスニーカー。
夫 なんて。
妻 あのヒゲのどこ、油性ペンで塗ってあげるから。
夫 ヒゲ。
妻 あの、シュってなってるよ。
夫 あれヒゲちゃう。
妻 ええから。あのマークのどこ黒塗ったらわからへんから。
夫 待ってくれや。せっかくのナイキ。

妻、笑って。

妻 ウソ。
夫 え。
妻 ウソやんか。そんなことで落ち込んでたん？ また買いに行こう、ア
ウトレット。
夫 セやけど。
妻 絵画モデル、またやらせてもらえんねん。モデル代入るし。

夫、「絵画モデル」という言葉に引っ掛かり、また沈む。

妻 何よ。
夫 今日、お前の絵見た。
妻 私の絵？
夫 喫茶店で。
妻 うそ。
夫 ホンマに。妊婦の絵やったし。
妻 案外、妊婦さんをモデルにしたいっていう画家の人、たくさんいては
るみたいやで。
夫 いやいや、あれは絶対お前や。
妻 どの喫茶店よ？
夫 淀屋橋の駅の、地下の喫茶店。
妻 ええ…
夫 ヌード。
妻 ヌード。
夫 腰抜かしたわ。そら靴の底も抜けるわ。
妻 はあ？

夫 お前、服着て描いてもらうって言うてたよな。完全にヌードやんけあれ。

妻 ちよっと待ってよ。証拠は？

夫、携帯のカメラを見せる。

夫 これ。

妻、見て返せない。

夫 どういうことやねん。

妻 うーん。

夫 確かに今、俺の失業保険だけで苦しいのはわかる。せやけど、超えたらアカン線があるやろ。

妻は携帯の画面を見ている。

夫 俺が仕事失ったんも、元はと言えばお前が整形したからやで。わかるか？ 服着てるより、そらヌードの方が金がええか知らんけど、これは完全に裏切り行為やぞ。

妻 裏切り行為？

夫 俺も、疑ったよ最初は。お前が簡単にヌードになるなんて思われへんから、色々考えてん。

妻 色々って。

夫 画家が勝手に想像して描いたんちゃうか、とか、体だけ別のモデルなんちゃうか、とか。

妻 あり得るんちゃう。

夫 でもちやうねん。この乳首。お前の乳首やん。右。陥没してる。

妻 はあ？

夫 ここにホクロあるんも、お前やん。

と、写メを指しながら、

妻 そこまで見えへん。

夫 俺は見たんじゃ。

夫、突如妻の服に手を掛ける。

夫 脱いでみ。

妻 ちよっとやめてよ。

夫 俺をあざむきたいんやったら、乳首まで整形せいや。
妻 何言ってるんよ。

と、避けて距離を取る。

妻 お腹赤ちゃんおんねんで。
夫 お腹に赤ちゃんおるお前が、なんで人前で裸さらしてんねん。
妻 絵やんか。

エエやんか、と聞こえて、

夫 認めたな！

妻 絵やろ？

夫 良くない。

妻 ちやう、絵やんかって。絵画。ピクチャー。

夫 は？

妻 何も悪いことしてへんやん。

夫 開き直った。

妻 アートやろ。

夫 喫茶店に飾られてんねんぞ。

妻 絵の中の裸見て興奮する人どこにおるん？

夫 でもお前、想像が、及ぶやろ。

妻 おかしいんちやうのりくん。

夫 お前やろおかしいんわ。なんで素人がヌードになったりすんねん。や
っば金か？

妻 そんなんちやう。

夫 ほんなら整形して、いい気になってるんか？

妻 ちやう。

夫 また始まった。お前のちやうちやうバリア。

妻 ちよっと待ってよ。何をそんなに怒ってるん。どこに腹立ててるん。

夫 そんなん決まってるやろ。

妻 何よ。

夫 絵描きの前で裸になったんやろ。全部見られたんやろ。お前の裸。

妻 そんなん当たり前やんか。絵描くの。

夫 だからってそんなアトリエみたいところで、2人きりで、そんなんお
前、変な感じなるやろ。

妻 変な感じって何。

夫 どんな描き慣れてるか知らんけど、お前スタイルだけはええし、変な
気起こしてもおかしいやろ。

妻 おばさんが？

夫 おばさんが。

夫「？」

夫 おばさんが？

妻 私描いてくれた人、60のおばさんやで。

夫 おじさ…(ん)

妻 おばさん。

夫、「おばさん」を咀嚼して理解する。

妻 なんも起きるはずないやろ？

夫、何を言っているかわからず、

夫 ビール。

と、言う。

妻、ビールを取りに行き、黙って出す。それを飲む夫。バツが悪い時間。地ビールの表示を見ているが、読んでいない。

妻も雑誌に目をやる。
ややあつて、

夫 いやでも、喫茶店に飾られるんはアカンやろ。

妻 まだその話するん。

夫 やなくて、お前も嫌やろ？

妻 何が。

夫 二度とあの喫茶店行かれへんねんで？

妻 なんで。

夫 そらそうやろ。顔指すやん。

妻 そんなん誰が気付くんよ。

夫 気付いたやろ、俺。

妻 それは旦那やからやろ。ほんなら、ベリーダンスの教室に飾ってる絵のりくん覚えてる？ リンゴ持って椅子に座ってる女の人の絵。

夫 え。

妻 何回か教室まで迎えに来てくれたやろ？

夫 絵なんかあった？

妻 な？ そんなもんやねんて。絵の存在すら記憶曖昧やねんから。

夫 せやけど、絵に興味あるやつやったら記憶してるかもしらんやろ。その記憶してるヤツがお前のこと見かけたら欲情してまうかもしらんやろ。

妻 そんなことあるわけないやん。
夫 お前こんな時代に「あるわけない」ことなんてないねんぞ。
妻 何言うてんのかわからん。久々のビールで酔うてんちゃう？
夫 酔うか。
妻 もうどうしたらいいん。
夫 絵外してもらってくれ。
妻 できへんよそんなん。
夫 その画家のおばさんに一言言うてもうたらええやん。

妻、呆れの息を漏らしてから、

妻 あんな。二階堂さんな。そのおばさん二階堂さん言うねんけど。二階堂さん早くに旦那さん亡くして、50越えてから美大通い出してんで。絵飾られるってことは、二階堂さんが認めれたんやん。その絵を外せなんて言うたら、悲しむやん二階堂さん。

夫 何回二階堂さん言うねん。もう五階堂さんやん。

妻 真面目に話してんねんけど。

夫 ……

妻 たとえば、のりくんのお母さん。

夫 何。

妻 お義父さん亡くなってから、私たちの整形のこともあつて、元氣なかつたやん。

夫 おお。

妻 で、お友達に誘ってもらって海外旅行行き始めたやろ。

夫 うん。

妻 もう4回。5カ月で。

夫 多いな。

妻 台湾、シンガポール、オーストラリア、ドバイ。段々遠くに行ってる。

妻 お父さんの生命保険で。

夫 今度ニューヨーク言うてたからな。

妻 それはええねんけど、それってお母さんの生甲斐やん？ そのお母さんに海外旅行行くの止めてって言える？

夫 そら、今は自由に楽しんだらええと思うけど。

妻 せやろ？ それと一緒やん。二階堂さんから絵取り上げるなんて出来へんやろ。

夫 ちやうやん。取り上げるんちやうくて、喫茶店から外してもらおうつて言うてるだけやん。

妻 だからそれが気の毒やろ。

夫 俺嫌やねん。お前の裸が公衆の面前にさらされるんが。

妻 だから絵画やんか。作品やん。のりくんの考え方おかしって。

夫 おかしくないやろ。真つ当な感覚やろ。
妻 もう、私も飲む。

と、冷蔵庫へ向かおうとする、

夫 こら！ 妊婦が！

妻 お茶やん。

夫 お茶かつ。

妻、お茶を持ってきて飲む。

夫がおもむろに、

夫 買おう。

妻 え？

夫 その人の、二階堂さんの絵買おう。喫茶店のやつ。そしたら誰も傷つかんやろ。

妻 そんなお金どこにあるん。

夫 そんな高いやろ。

妻 言い値やとは思うけど、数千円で引き取りますってわけにはいかんやん。

夫 ほんなら、なんぼやったらええねん。3万くらいか？

妻 なんぼとかちやうやん。たとえば、3万円包んだとして、私のモデル代が3万円やで。なんか本末転倒やん。

夫 お前、たった3万が惜しいんか。

妻 現実見てえや。これからミルク代もオムツ代もいくらでもかかんねんで。

夫 そんなん分かってるけど、お前、二階堂さんの絵を認めてあげたいみたいな話ししとったやん。

妻 私らを買わんでも喫茶店に飾られた時点で認められてるねやんか。

夫 俺はそれが嫌や言うてんねん。

夫、いきなり服を脱ぎ始める。

妻 何よ今度は。

夫、聞かずにパンツ一丁になる。

妻 もう、この人は… なんなん？

夫 明日から、俺この格好で就活する。

妻 はあ？

夫 淀屋橋も、本町もこの格好で歩くから。パンイチに革靴履いて。

妻 何を言うてるんよ。

夫 ちやう。ナイキのスニーカー履いて。それで、試験受けて、面接すんねん。どうや。

妻 会社着く前に捕まるわ。

夫 恥ずかしいやろ。自分の旦那がパンイチでビジネス街闊歩すんねん。ナイキのスニーカーで。恥ずかしいやろ？

妻 その生き様が恥ずかしい。

夫 そういうことやで？ お前がやってること、そういうことや。

妻 全然違う。なんでいつもそうなん。なんでいつもそんなイビツな、歪んだ反抗してみせるん？

夫 俺の気持ちに分かってほしいからや。

妻 分かるわけがない。

夫 俺からしたらそういうことやねん。お前のヌードは、俺だけのものであつてほしいねん。

妻、大きく溜息をついて、

妻 そうやってのりくんはいつも私をカゴの中に閉じ込めようとする。

夫 は？

妻 独占欲強いねんのりくんは。

夫 嫁の裸を他人に見せたくないって、どこが独占欲やねん。

妻 ただ私のこと認めたくないやろ？

夫 よう言うな。お前の整形まで容認した俺やぞ。

妻 あんときかて、私が自分の所有物じゃなくなるような気がして怖かつたからヤイヤイ言うてたんやろ。自分の顔まで変えて。

夫 俺がどんな思いでこの顔に変えたか。

妻 異常や。

夫 俺は何も間違つてへん。

妻 間違つてるよ全部。妊娠のことがあつたから、結局ウヤムヤになったままやけど、やっぱりそうやねん。のりくん、私のこと自分専用のフィギアかなんかやと思つてんねん。

夫 そんなん思つてへん。

妻 そこにただ置いときたいだけやん。

夫、黙る。

妻 私、この顔にして、めっちゃ背筋伸ばせるようになった。百貨店の化粧品売場で化粧品物色するのに何の引け目もなくなったし、写真撮られるのも怖くなくなった。

夫 ……。

妻 もっと自分には可能性があるって思った。だから、絵画モデル紹介されたときはすごく嬉しかったし、二階堂さんに脱いでほしいって言われたときなんか、もう完全に世の中に迎えられたような気がして。

夫 なんやねんそれ。

妻、エコー写真を手にして、

妻 なあ見て。お腹の赤ちゃんの顔。まだはっきり見えへんけど、私怖いねん。この子がどんな顔して生まれてくるか。

夫 そういうこと言うなって言ってるやろ。

妻 この子を乗り越えられるくらい、私自分に自信つけたいねん。

夫 おかしいって。お前おかしいって。顔変えて、内面までおかしくなるやんか。あんとき俺に一生懸命言うてたことと違ってきてるやん。

妻 ちゃうねん。これは成長やねん。

夫 お前マイケル・ジャクソンか。

妻 顔が変わって、内面も育ってきてんねん。今その途中やから。まだ不安定やけど、きつとそのうちこの顔に見合った内面が出来るから。

夫、曇りなき妻の目を不安に思いながら見つめる。
そして、

夫 考えよう。

妻 何を。

夫 色々。

妻 色々って何。

夫が思案する時間。

妻 ……離婚？

夫 なんでやねん。お腹の子どうすんねん。

妻 そやけど。

夫 考えんねん。お前も俺も、赤ん坊も、みんな安心して暮らせる方法を。

それを聞いて妻も黙る。

夫 あ。そうか。外国や。

妻 外国？

夫 外国で暮らそう。アジアじゃないとこ。

妻 どういうこと？

夫 それこそニューヨークとか。欧米人から見たら、日本人の顔なんかみんな一緒や。俺もお前も、息子も。

妻 だからって、

夫 内面、ちゃんと磨き直したらええやん。そしたら、俺らが気にしてた容姿なんかホンマどうでも良くなるんちゃうか。

妻 本気で言ってる？ その格好で。

夫 おお。どうせ仕事探すんやったら、どこでも一緒や。

妻 言葉の壁があるやん。

夫 このまま日本においたら、もっと厄介な壁がそこら中、立ちほだかんねんぞ。

妻 ちよつとのりくん冷静になって。

夫 これ以上の案ないやろ。おし、ニューヨークや。俺、オカンについていって下見行ってくるわ。就活兼ねて。

妻 のりくん！

夫 ニューヨークやったらスーツにスニーカーでもおかしない。

妻 無理やから。

夫 何が。

妻 ニューヨーク。

夫 なんで。

妻 なんでって、わかるやん。

夫 それやったらどこがええねん。アルゼンチンか？ カザフスタンか？

トリニダードトバゴ（うまく言えない）か？

妻 ちよつと黙って。

夫 おいどこがええねん。お前はどこがええねん。

妻、夫のお腹に正拳を入れる。

夫 おうう。

妻、エコー写真を手にして、

妻 お父さんになんねやろ。

夫 おう。

夫、落ち着きを取り戻す。

妻 まずこの子ちゃんと産もう。そうやろ？

夫 うん。

妻、夫の手を取って、

妻 一緒に祈って。

夫 ……あ。

妻 マシな顔の子が生まれてくるように。

夫、首を振って、

夫 違うやん。そういうことちゃうやん。

妻も首を振って、

妻 祈って。お願いやから。

夫 お前がそんなんやったら、生まれて来る子がかわいそうやろ。
妻 のりくんもや。そんなお父さん、かわいそうや。

夫 何が。

妻 服。

夫 え。

妻 着て。服着て。

夫 嫌じゃ。

妻 ほらまたそういうこと。

夫 描いてもらうねん。

妻 は？

夫 俺も描いてもらうねん、ヌード。二階堂さんに。

妻 何言うてるんよ。

夫 ほんで、淀屋橋の喫茶店の、お前の絵の横に飾ってもらうねん。二階

堂さん呼んでくれ。

妻 来るわけないやんか。

夫 絵の中の裸のお前を、絵の俺が守んねん。

妻 なんて？

夫 俺らは海外で暮らすことになるやろ。

妻 暮らさへん。

夫 暮らすねん、海外で。で、日本に残された絵の中のお前を、そのお腹

の赤ちゃんを、絵の俺が守る。だから描いてもらうんや。

妻 絵の私まで束縛する気？

夫 お前のコンプレックスは俺が背負ったんやから。この顔で、お前の不
安、全部引き受けてんから。もう何も心配せんと、俺についてこい。

妻 その顔で何をカッコつけてるんよ。ついていけないわけないやんか。

夫 なんてやねん。そしたらどうしたらええねん。俺はどうしたらええね
ん。

妻 もう何なんよ。

夫 俺はお前のことが好きなだけやのに。お前のこと、好きなだけやのに。

夫、テーブルに突っ伏す。

妻、しばらく夫を見てから油性ペンを持ってくる。

妻 スニーカー持ってきて。

夫、顔を上げる。

妻 ナイキの。

夫 え。

妻 のりくんが今やれることは、就活やから。

夫 ……

妻 そうやろ。

夫、頷く。

妻 やから持ってきて。ヒゲのとこ塗ったあげる。油性ペンで。

夫 なんでやねん。なんで油性やねん。

妻 水性やったらすぐ落ちるやんか。

夫 そういう問題ちゃう。

妻 顔まで変えた夫婦が油性を恐れてどうするんよ。

夫 ええ。

と、渋る夫を椅子に座らせて、顔に油性ペンでヒゲのマークを描く。

夫 ちよ、なんやねん。

妻 動かない。(マーク完成) …よし、本番。

と、靴を取りに行く。

夫 ちよう待てって。

夫、立ち尽くし、「ヒゲのマーク」が書かれた辺りを触る。
溶暗。

第二場 了

完